

今回お話を伺ったのは >>>

国際基督教大学

図書館
パブリック・サービス課
宮本 智佳子 様

独特の雰囲気を出し出す国際基督教大学。ここでは専門科目の3割がEnglish Speakerによるという、実践で身に付けることをとても重視している印象を受けました。アカデミックも毎月安定して高い利用実績を出しております。今はi MACとPCが綺麗に配置してある図書館にお邪魔させていただきました。

LexisNexis Academicのご利用状況をお聞かせください。

「主にニュース検索で利用しております。月1,000サーチは超えます。4月に入学するとすぐに英語教育プログラムの授業(ELP)が始まり、そこで英語のレポートを提出しますので、それに向けて学生は新聞・雑誌の検索を始めます。」

学生への利用促進、指導はどのように行われていますか？

「ELPの授業で、図書館のレファレンスより学生にガイダンスを開いております。年に1回です。」

情報検索教育の必要性または取り組みについてお聞かせください。

「学習を進めるのに必要なものだと思います。また多くのデータベースがあり、それぞれ価値のあるものですので、学生にはただ単に利用方法だけを伝えるのではなく、求める情報がどこにあるかも明確に伝えるようにしています。」

学生の興味度・反応はいかがでしょう？

「年1回のガイダンスですが、学生は大変興味を持ちその後も継続的に利用しております。」

具体的な活用例がありましたら教えてください。

「やはり新聞検索がメインになります。検索内容はレポートトピックにあった国内のトレンド情報や経済情報などを検索しています。」

利用が多いのはどの学部でしょうか？

「英字新聞検索は学部、学科関係なく利用しております。社会科学科、国際関係学科や行政学研究科はリーガルサーチツールとしても利用しております。」

英語情報データベースの利点と損点がありますでしょうか？

「利点は充実した収録状況と優れた機能ではないでしょうか。損点は特にありません。」

Academicを選ばれたポイントとお気に入りのコンテンツは何でしょうか？

「国内外の英字新聞・雑誌の収録数です。日本で出版されている英字新聞をよく使っているようです。(Japan Times, Daily Yomiuri, Nikkei weekly等)」

Academicユーザーに期待することは何でしょうか？

「フリーサイトなども含め情報が氾濫している中、信頼性のある情報を的確に取り出す力を身につけて欲しいと思っています。」

Academic Serviceについてご要望をお聞かせください。

「国際基督教大学ではAcademicをOPACと連動させておりますが、最初に表示する画面に限界があります。それを向上していただきたい。あと利用状況の一覧がライブラリ名で表示されているのもっとわかりやすくしていただきたい。」

ーはい。ご要望、1つ1つ検討し実現に向けて努力いたします。

ご利用歴と利用料金のご負担は？

「90年代の前半よりtelnetでの利用をしていました。料金は図書館で負担しています。」

在学生数とAcademicに接続できる学内のPCの数は？

「学部生で3,000人。学院生で200人くらいです。PCの数は750台で、図書館内ですと122台です。(i MAC含む)」

現在導入されております商用データベースは？

「20数種類利用しています。ProQuest, MAGAZINEPLUS, JSTOR等です。」

インタビュー実施日：2003年3月18日